

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2796100069		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター泉ヶ丘 グループホーム ニチイのほほえみ (1階)		
所在地	〒599-8253 大阪府堺市中区深阪3丁1番74号		
自己評価作成日	平成27年7月9日	評価結果市町村受理日	平成27年10月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2796100069-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成27年8月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2015年2月から管理者が変わり、利用者のニーズや求めている物は何か？スタッフが笑顔で働きやすい職場作りを求め、1年5ヶ月模索して参りました。職員の入れ替わりは多少あったものの、両ユニット共ほぼ定着し利用者にとって、また職員にとっても落ち着いた日々を送りつつあります。しかし本来のグループホームのあり方や職員も楽しく仕事が出来る場にはまだまだなっておらず、日々アクティビティ等に力を入れ同時に新人職員や前から居る職員も含めホーム内勉強会、ミーティングを通して報告 連絡 相談 がスムーズに出来るホーム作りを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は、「思いやりを大切に、その人の世界に寄り添います。その人の喜怒哀楽を大切にできるアットホームな場所を目指します」という独自の理念の下、利用者の思いや希望を汲み、利用者本位の支援を心掛けています。近隣の公園での地域の夏祭りへの参加や事業所の祭りには地域の子供達を招待し、また区の認知症サポーター講座に参加し地域との交流や利用者へのサービスの向上に繋がるよう努めています。面会や運営推進会議等で家族からの意見を謙虚に聞き、改善に向け前向きに検討したり、外出の機会を増やせるよう力を入れ、利用者の希望を聞いて散歩や買い物、焼肉店や喫茶店等へ出かけています。会議や勉強会の機会には報告や連絡、相談の徹底を図れるよう検討したり、働きやすい環境となるよう職員全員で話し合っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念を夕礼の申し送り時に唱和しスタッフ間で周知、共有し意識を高めている	前任の管理者と職員で考え作られた理念は、利用者本位の思いにそったケアを提供したいとの思いが込められ、夕礼時の唱和で意識付けを行っています。居室担当者が利用者の希望や思いを聞き日々のケアに活かせるよう心掛け、管理者が理念に沿った支援が出来ているかを確認をし理念の実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とのふれあいは少しづつではあるが、増えてきている。地域の祭りに参加させてもらったり、ニチイ祭りに地域の方を招いたりしている。	散歩時には地域の方と挨拶し、花をもらう事もあります。地域の方から案内をもらい近隣の公園の夏祭りに参加し、ニチイ祭りにはチラシを配り公園で子供達にも声をかけ参加を得ています。音楽の演奏のボランティアの来訪も定期的あり、また区と協力し認知症サポーター講座に出向き、地域の方との繋がりを持てるように努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にてご家族様や民生員さんに向け地域の高齢者でお困りのケースがある場合相談窓口としてご相談頂けるよう発信している。実際に地域包括を通して救済した事がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議にてご家族さまから貴重なご意見ご要望をお聞きし、運営に生かしている。献立の改良などに繋がり、サービス向上に繋げている。	会議は2か月に1回、家族、民生委員、地域包括支援センター職員、他事業所の管理者等の参加の下開催し、現状や運営に関する報告、行事予定の連絡後に意見交換を行っています。もらった意見や提案から利用者が食べやすいように和食中心の食事に変えたり、協力医を変更する等、出された意見は検討し運営に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連絡を取り合えるような関係ではないが、中区基幹型包括支援センターへご挨拶に伺っている。	運営上の手続きや不明点の確認は法人を通じて行っています。集団指導時に市の窓口へ訪問したり、市から研修の案内が届いた際には内容や可能な限り参加することで行政と協力関係を構築するように努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間の玄関、フロアーの施錠はしている。身体拘束・虐待防止委員を設置し年2回ホーム内勉強会にて身体拘束・高齢者虐待について話し合いそれらの無いホーム作りを目指している。	身体拘束委員が中心になり、身体拘束に関する資料や事例を通じて問いかけ、欠席者には資料を配布し学ぶ機会を設けています。言葉による制止が見られた時は指導し、申し送りで確認しあっています。各フロアの入口は常時開錠し、外に行きたい様子があれば付き添い閉塞感のないよう努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・高齢者虐待防止委員を設置し勉強会を設け、何が虐待に当たるのかを日々職員が考え行動出来るようお互いが言い合える環境を目指している。		

ニチイケアセンター泉ヶ丘(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1度集団指導の資料に基づきDVDを見て勉強の機会を作り、感想文の提出を義務づけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	納得して頂けるよう、ゆっくり丁寧な説明を心がけている。質問にもキチンとお答えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設けている。面会時には管理者のみならず、実際にお世話している職員にもご意見ご要望が伝わるよう働きかけ、運営に反映させている。	年1回法人が実施するアンケートや面会時、運営推進会議、電話等で家族から意見を聞き、また職員は来訪時の家族へ挨拶だけではなく利用者の普段の様子を伝えて意見を聞きやすいように工夫しています。利用者ごとの担当職員は毎月交代し、利用者から聞いた意見は記録を取っています。得られた意見から清掃の頻度や時間帯を工夫する等、意見を運営に活かしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回委員会ミーティングを開き各委員会から前月の反省、次月への取り組み等計画の立案、発表を行なっている。	職員が各々担当している委員会ミーティングや全体会議、ユニット会議を毎月開催し、職員は意見を出し合っています。協力医や薬局の変更で対応が変わり、その際の申し送り方法や浸透できるように職員が持ち回りで議事録を作るようにする等、意見を業務改善に活かし取り組んでいます。年2回事前にアンケートを取り個別の面談の機会もあり、意見を聞くよう努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回2月と8月に職員に対しアンケートを事前にとり、管理者と個別面談を行なっている。その際に希望、要望等把握し、管理者会議等で議題に上げるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修への参加、行政実施の研修参加、あまり多くないが他施設へ見学をかねた訪問等、折を見て実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	中区グループホームの連絡会に定期的に参加しており、職員や利用者も交えた「歌合戦」に参加し、お互いに良い刺激になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式を用い、ご本人の好きな物、嫌な事などの把握に努め、出来るだけ希望に沿った生活が出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアプランの作成前にご家族様よりご意見や注意点等をお聞きし、サービスに生かせるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	カンファレンス時に必要としている支援について話し合い、必要であれば、家事代行や福祉用具の導入など提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする関係とは言えないが、家事や調理について、利用者からアドバイスをしてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホーム内でのご本人の様子をお便りで報告し写真添付をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の面会が多く、その方の地域の方やご友人の面会は少ない。	友人や元教え子、親戚、姉妹等の来訪があり居室や和室に案内し、ゆっくり過ごせるよう支援しています。家族の対応で自宅や墓参り、法事等に外出する際には外出前の準備の支援をしたり、電話の取り次ぎなど、馴染みの人や場所との関係継続の支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	合同のレクリエーションを多く取り入れ入居者間のコミュニケーションに生かしている。またその際皆さんで調理を分担したり助け合える場作りをしている。		

ニチイケアセンター泉ヶ丘(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	あまり実例は無いが、相談 支援のお声かけはしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望要望の把握に努めている。	入居時に利用者や家族と面談し思いや希望、趣味、身体状況、生活歴等を聞き取ると共に家族にも用紙に記入してもらっています。入居後の利用者との関わり合いの中で聞いた言葉や気付き、新たな情報は介護記録に記録し、困難な時は利用者の声の調子や表情から思いや希望を汲み取り、職員間で話し合って検討し、思いの把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を用い、出来るだけ馴染みの生活を取り入れたサービス提供に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が一人ひとりに合った残存機能を活かし家事や小物作りのお手伝いをして頂くよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス時に、職員間だけではあるがご本人のより良い暮らしの為に様々な意見を出し合いケアプランに反映させている。	アセスメントや日々の記録と利用者、家族の思いを基に介護計画を作成しています。初回の計画案を基に1か月後に開くサービス担当者会議で見直しています。その後は3か月毎のモニタリングで評価と確認を行い、変化がなければ6か月毎に再アセスメントを行い見直し、往診時に聞いた医師や家族の意見も計画に反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、介護計画に記入し、情報の共有に努めている。また計画作成者は支援経過に記入し日々の変化に対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別外出やご当地グルメ企画などで楽しんで頂いているがあまり柔軟な取り組みとは言えない。		

ニチイケアセンター泉ヶ丘(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流として、ニチイ祭り・盆踊りへの参加、見学会時の交流などわずかである。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に家族等と相談しかかりつけ医を決めている。24時間対応もあり全員が事業所の協力医を利用しています。協力医は内科、歯科、マッサージ師の往診を受ける事が出来、専門医の受診は家族が付き添い、受診後に情報を得ている。	入居時に今までのかかりつけ医の継続か2週間毎の協力医の往診を受けるか選択してもらい、全員が協力医を選択しています。他の専門科へは家族対応が基本で、必要により職員も同行で受診し情報提供しています。協力医は24時間連絡可能です。訪問歯科は週1回口腔ケアや治療があり、利用者の希望により訪問マッサージや皮膚科の往診も受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護、往診時に日ごろの変化や日常の健康管理について相談、報告をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者と主治医で連携しご家族様からの情報も頂き早期の退院に向け調整出来るところは調整している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、管理者・主治医・家族様とで今後について話し合う場を設け、職員にも情報共有している。	入居時に看取りの指針を説明しています。利用者の状態が重度化した時には家族や協力医、管理者と話し合い意向を確認し、事業所では可能な事を伝え方針を共有し看取りの支援をしています。今までの事例を基に看取りの勉強会を行い、知識や連絡、対応方法等を学んだり、協力医に相談しながら不安の解消に繋げています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を通じて職員には急変時の対応を伝えている。最近も救急救命の講習を消防署に依頼したが、18時以降の講習には応じてもらえず、検討中である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回夜間を想定した非難訓練を利用者・職員共に参加し行なっている。	年2回昼夜想定で行う避難訓練は、内1回は消防署立会の下で避難誘導や通報訓練、水消火器を使つての訓練を実施しアドバイスをもらっています。駐車場を避難場所とし訓練時には利用者も参加しています。水や食料等の備蓄をしています。	事業所の防災訓練に地域の方へ案内し参加を呼び掛けたり、地域の防災訓練への参加を通じて防災面での地域との協力関係を築かれることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「自分がされて嫌な事は相手にしない」という指導を常々している。又、あまり格式ばった物言いを好まない利用者にはきさくに話しかける等の配慮をしている。	基本として「自分がされて嫌な事は相手にしない」ということを心がけ支援するように伝えています。排泄や入浴の対応では利用者の周囲や状況に気を配り、敬語に近い言葉遣いや丁寧な対応を心がけています。不適切な言葉かけが見られた時は、理由を聞いた上で管理者が注意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出したい要望に答えたり、食事について出来るだけ希望に沿った環境作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人個人のペースに合わせる事は難しいが、出来るだけ寄り添い、話をする事で希望や要望を傾聴している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容、季節に合った洋服選びの支援を行い、身だしなみに配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや要望を献立に取り入れている。食事準備は限られた方のみであるが、方付けも含め、職員と一緒にこなしている。	利用者の好みを聞き献立を考え食材を届けてもらい朝と昼を作り、夕食は業者を利用しています。利用者も米を研ぎや野菜を切ったり、炒め物、盛り付け、洗い物等に参加しています。週末に手作りおやつや材料を利用者と一緒に行っています。回転寿司等の外食に出掛けたり、おせちや流しそうめん等の季節の食事を作ったり、手作りおやつやバーベキューを実施して楽しんでもらっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分の目標日/1300CCを目指し、水分摂取に取り組んでいる。飲むのが苦手な方にはゼリーの提供で工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの促しを行っている。自身で出来ない方へは職員が行っている。		

ニチイケアセンター泉ヶ丘(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄誘導には言葉掛けに配慮し食前・食後、又は便通の薬を服用した場合のご本人の様子に常に気を付けている。	個々の排泄の記録を取りパターンを把握し、利用者の状況に応じて声かけや誘導を行いトイレでの排泄を基本に支援をしています。排泄用品の検討では利用者の様子やコスト面にも配慮し、ケアの統一を図り、失敗が減り布に下着に戻った事例や車椅子から杖歩行でトイレに行けるようになるなど自立へと向かえるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく食事療法で排便を促したいが現状は薬に頼っている。しかし献立に便通に良い物の取り入れは行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	実際には想定外の入浴もあり(便失等)入浴を楽しみにされている利用者は少ない。	1～2日おきを基本に午後に入浴し、毎日入っている方もあります。入浴拒否が見られる利用者にはタイミングや声を掛ける人を代えて無理なく入浴してもらい、強い拒否の利用者には清拭や足浴をしています。湯は1人ずつ交換し、ゆずや菖蒲の季節湯を実施したり、入浴剤の使用や好みのシャンプーを持ち込み入浴を楽しんでもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝介助が必要な方へは随時支援し、中々眠れない方には飲み物等の提供をして心が落ち着くまで寄り添うなどの支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が理解しているとは言えないがお薬情報に目を通し利用者の薬を把握するよう指導している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換に買物外出をしたり、好きな食べ物の提供を行なっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別外出の企画を行い希望があれば駅まで行って外食をしている。あまり遠方へは行っていない。	気候の良い日は近隣の散歩を実施し、隣の公園へはほぼ毎日行っています。個別の外出支援では焼肉やハンバーガー、喫茶店、ケーキを食べに外出しています。初詣や梅を見に出掛けたり、介護タクシーを利用して遠足では浜寺公園まで出掛けています。日常的にウッドデッキでお茶やバーベキューで戸外で過ごし、重度の利用者も外気浴を楽しんでもらっています。	

ニチイケアセンター泉ヶ丘(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	週末に利用者と共に近隣のスーパーへ行き、ちょっとした買物など楽しんで頂いている。レジで支払いのみ本人にもらい、所持は行なっていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族へ電話をしてほしい要望には家族の了承を得ている方のみ行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁に季節の絵を飾ったり花を生けたりして季節感を出すようにしている。室温、テレビの音量等にも配慮している。	廊下に行事の写真や利用者が作った貼り絵を掲示し思い出話しに寄り添い、好きな音楽をかけ温かい雰囲気作りに努めています。庭で育てる花や生花を飾り、季節感を出せるように工夫しています。利用者同士の相性を考慮しテーブルの配置を工夫し、寛げる空間となるようソファや椅子の配置にも配慮しています。朝晩に清掃を行い清潔を保ち、採光や換気、温湿度管理をしながら快適な共用空間作りに努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	所処に椅子やソファを置き気の合った利用者が楽しく会話出来るよう配慮している。好きな音楽をかけて懐かしい雰囲気を出している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族様と持参したい家具等について相談し家具の配置にも配慮、危険の無いよう設置し家族の写真等もいつでも見れるよう壁に貼ったりご自身の趣味の作品を飾ったりしている。	利用者は仏壇やテレビ、ソファ、椅子、筆筒、家族の写真、ぬいぐるみ等の使い慣れた物や大切にしている物を自由に持って来てもらっています。布団敷きの対応も可能で、配置は利用者の意見や家族と相談して決めています。利用者が描いた絵や茶道具、大正琴を持ち込んだり新聞を取って居室で楽しんでいます。換気や清掃に気を配り、快適な居室作りに努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ内に手拭ペーパーとトイレトペーパーの用途の説明文を張り、自立を促している。		